

八中3年人権だよ

徳島市 八万中学校
3年生 第1号
2021年 4月12日
編集・文責 吉成正士

4月16日金曜日の総合学習。3年生全体で行う人権学習の資料は、これです。

「峠」

真壁 仁

峠は決定をいいるところだ。
峠には訣別のためのあかるい憂 愁がながれている。
峠路をのぼりつめたものは
のしかかってくる天碧に身をさらし
やがてそれを背にする。
風景はそこで綴じあっているが
ひとつをうしなうことなしに
別個の風景にはいつてゆけない。
大きな喪失にたえてのみ
あたらしい世界がひらける。
峠にたつとき
すぎ来しみちはなつかしく
ひらけるみちはたのしい。
みちはこたえない。
みちはかぎりなくさそうばかりだ。
峠のうへの空はあこがれのようにあまい。
たとえ行手がきまっても
ひとはそこで
ひとつの世界に別かれねばならぬ。
そのおもいをうずめるため
たびびとはゆっくり小 便をしたり
摘みくさをしたり
たばこをくゆらしたりして
見えるかぎりの風景を眼におさめる。

今年度、3年団の所属になりました、吉成正士(よしなりただし)です。この1年間、人権だよりを発行していきます。どうぞよろしくお願ひします。

さて、冒頭にも書きましたが、この16日の総合の時間、学年全体の人権学習を行います。その時に扱う資料、「峠」です。といつても、この「峠」について話し合うのではなく、「峠」の資料を通して、みなさんそれぞれの中にある自分の思いを語っていく時間です。授業は私が進行していきます。

先月の1・2年合同人権学習の時に、次のような発言をしてくれた人がいました。

八中1年の人権だよりを読んで、信じたいだけではなく、おかしいと思ったことはおかしいと言える関係をつくりたいと思いました。おかしいと思ったことをおかしいと言うことで、その友達との絆がよりいっそう強くなると思ったからです。

おかしいことを、「おかしい」と言える関係。嫌なことを、「嫌だ」と言える関係。しんどいことを、「しんどい」と言える関係。戦争が起こる前や戦時中は、それが自由にできませんでした。そんな世の中では、人権は守られません。今のミャンマー情勢がまさにそ

うです。みなさんは、それができる関係性であつてほしいなと思います。

ちょっと違うかもしれないんですけど、小学校の時に戦争について習ったときに、2度と同じ過ちを繰り返さないように学習するって先生がおっしゃってたんですけど、それはこの差別の学習についても通じるところがあるかなって思います。まず、昔のこととか、他の人がされてきたことを知って、それから考えるのが人権学習で一番大事なんじゃないかなと私は思いました。

「安らかに眠って下さい 過ちは繰り返しませぬから」
広島原爆死没者慰霊碑に刻まれている言葉です。そんな学びも、みなさんはしてきたのではないでしょう

うか。
「温故知新」…古きを温め、新しきを知る
歴史を学ぶことで、その反省に立ち、新しいより良き時代を築いていくのは、今を生きる私たちでしかありません。

またこんなことを言ってくれた人もいました。

はなさんが、差別を受けたわけじゃないけど「悔しい」って言ってるのを聞いて。私のおばあちゃんが友達と遊びに行くたびに、その子がどこに住んでるのか訊くんですけど、差別をするつもりで訊いたんじゃないかもしれないんですけど、なんかすごくモヤモヤする感じがあつて。おばあちゃんのこと別々に嫌いなわけじゃないし、家族なので。

シンジさんが、お互いの気持ちを大切にすることを築けてるのがすごいなと思ったので、私もそんなふうにお互いの気持ちを大切にできる関係をいろんな人と築いていきたいなと思いました。

すべて分かり合えることはないのかもしれませんが。でも、だからといって分かり合おうとしないのは、少し違うように思います。たとえどんな関係であっても、やはり関係性を築く努力をすることだと思います。ケンカや争い、「対立」ではなく、分かり合おうと「対話」する自分になっていくことなのだと思います。

今の河見先生の話に大変賛同して。たぶん一生かかっても、人類が人類である時点で、極論、差別とかイジメとかなくなっていかないと思うんですよ。機械じゃないので。でも助け合える力だったりとか、傷つけたときにゴメンなさいと言える力だったりとか、そういうものつて、たぶん一人一人が成長していく過程で自分の中から生みだせるっていうか、元々なくても、どんどん自分が意識を変えることでつくれると思うので。

イジメは一生なくなれないかもしれないし、差別もなくなれないかもしれない。新しい差別も生まれるかもしれないし、どんどん標的を変えて人をイジめる子だつていと思うけど、そういうのを当たり前と思わずに、自分がみんな一人一人、変わっていくとする意識がすご

い大事だなと思いました。

自分の意識を変えていくことの大切さを訴えてくれる人もいました。しかしそれは、自分一人の力では難しいかもしれません。みんなで学び合うからこそ見えてきて、気づけるのかもしれないと思うのです。そういう雰囲気をつくりあげていくことが、遠回りのように見えて、一番の近道のように思います。みなさんが語る言葉には、そういう力があるのです。

差別がどっちみちなくならないにしても、勉強はする必要がある**と思います。しなかったらなくなるのではなく、されていた記憶がなくなるだけであって、されていた**事実はなくなる**ないので、勉強したら正しい知識も得ることができるし、勉強しなかったら今コロナに罹った人のことをいじめたりするのと同じように、いろんなことに広がって、差別はなくならないと思うので、正しい知識を得るために勉強はすべきだ**と**思います。**

果たしてこれまで、きちんと人権学習が行われてきたのか。もしきちんとされてきたならば、コロナ差別というものはもっと小さいものになっていたのではないかと思います。もしかすると、これまでの人権学習は、どこかヒトゴトだったのかもしれませんが。それを、ワガコトの人権学習に変えていく。そのために、「自分を語る」ことが、その第一歩ではないかと思います。

1年生(現2年生)に、こんな感想を書いてきてくれた人がいました。

■私はシンジさんとはなちゃんの話聴いて、**何度**も心の中で自分と向き合いました。2人とも部落出身であり、多くの体験をしていて、今までの学習もふり返ることができました。

シンジさんの話からは、タクヤさんとのこと、結婚するときのことなど、人と多く関わり合うことの体験の話が聴けて、**人と関係・人権学習からの学び**など、また深く考えられました。

はなちゃんの話からは、自分の周りの人の言葉、**知ることの大切さ**、人権学習からの学びをゆっくりと心に教えてくれるような話を聴くことができました。

私が一番印象に残っていることは、**2年生の先輩の言葉**で、「人権学習をしなかった場合、差別はなくなるのではなく、差別していること、差別されていることに気づいていないだけで、差別があったという**事実は動かない**」といった言葉です。本当にその通りだと思いました。

まずは、**知ること、学ぶこと、思いを伝えること、対話**をすることを目標にして、また「差別減」への**第一歩**を歩み出します。

学年を越えてつながり合うことで、新しい時代の「希望」を感じました。時代はちゃんと進んでいる、思いはちゃんと伝わっている、人を信じ、「未来」を信じてもいいと、思えました。

とはいえ、学校を出た途端、学びの場も機会も失われます。自分から求めて歩こうとしなければ、アップデートすることはなくなってしまいます。立ち止まったままになります。それは、時代が進んでいくことを考えると、後退になってしまうのだと思います。つま

り、「学び続けることの大切さ」です。

「継続は力なり」

いつまでも自ら進んで歩もうとする自分かどうか、そんな自分になろうとしているかどうか、問われているのです。それは人権学習だけでなく、今みなさんがしている勉強についても同じです。受験のためだけの学びではなく、自分のために、より良い社会にしてい



くいたために、私たちは学んでいくのです。このときの部落差別についての学習や、修学旅行をきっかけに取り組んできた平和学習。ホロコーストだけでなくヒロシマやナガサキ、オキナワや、日本がアジア諸国に及ぼしてきた戦争についても学んできました。これからは、中学生生活最後の体育祭や総体、文化祭やコンクールなど、多くの行事が予定されています。今夏には平和の祭典、TOKYOオリンピックも開かれます。しかしそのすべてが、「平和」であることを前提としています。つまり、人権が損なわれたところでは、何もかもが簡単に失われてしまうということなのです。それだけ、人権を守るということは大切なことだということです。

冒頭の「峠」の詩に戻りますが、あなたが失った、「**大きな喪失**」とは何でしょう。

あなたにとっての「**あたらしい世界**」とは何でしょう。

あなたにとっての「**すぎ来しみち**」や「**ひらけるみち**」とは何でしょうか。

あなたがお別れをした、「**ひとつの世界**」とは、どんなでしたか。

あなたが見てきた「**見えるかぎりの風景**」とは、どんなでしたか。

あなたにとっての「**峠**」とは、何ですか。

これからみなさんは、このクラスで、この学年で、義務教育最後の体育祭を、最後の大会やコンクールを、修学旅行や文化祭を、いくつもの人権学習を体験していくこととなります。そしてその最後に待ち受けるのは、進路決定であり、卒業です。

読んでいて、今みなさんは、どんな気持ちになっているでしょう。また、どんな悩みのなかにいるでしょう。どんな不安のなかにいるでしょう。どんな夢や希望のなかにいるでしょう。2年のときのクラスや先生に心残りがあって、しがみつきたい気持ちの人もいるかもしれません。

「いま」、自分の中にあること、「これから」、みなさんに起こることを、自分の言葉で、それぞれの本音で、語り合っていきましょう。そして、

「よろこびは2倍になり、かなしみは半分になる」と思えるようなクラスを、学年を、仲間関係を、**今**ここで一緒に居られない仲間の思いも含めて、みんなでつくっていきたいと思います。

「ようこそ、この学級に！」を、一度は書いたと思いますが、今一度見返してみてください。そして、心の中で、加筆・修正してみてください。それを胸に抱き、4月16日の学年全体人権学習に向かいたいと思います。仲間の声に耳を澄まし、仲間の声に応えられるような、心が震えるような、胸が熱くなるような、そんな時間にしていきましょう。みんなで語り合う人権学習は、すべてを変えます。

